

問題 I

以下の問題文の空欄 (1) (2) から (15) (16) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部(ア)から(ウ)に関する設問1から設問3に答えなさい。

ヨーロッパの法は、現代の世界の主要な法制の基礎となっている。その源流をたどってみよう。

哲学に長けたギリシアに対し、実用の領域で功績のあったローマにおいて、後世に受け継がれた偉大な遺産の一つが、ローマ法である。^(ア)ローマ法やローマ法学の盛衰の系譜は、ローマの政治体制の変遷とも密接にかかわっている。紀元前6世紀末に王を追放してから約150年の間に、プレブスの力が拡大してパトリキとの身分闘争が解消したことにより、ローマ人が一体となった共和政は完成をみた。その過程では、ローマ最古の成文法である十二表法も重要な役割を担った。元首政の時代にローマ法学は隆盛をきわめたが、皇帝 (1) (2) の即位にはじまる軍人皇帝時代に入ると、 (3) (4) の戦いでササン朝ペルシアに敗れ皇帝ヴァレリアヌスが捕虜となるなど、ローマの国力低下は顕著となり、ローマ法学も衰退の一途をたどった。

一方、ローマ帝国に圧力を加え続けたゲルマン人の法も、ヨーロッパ法の源の一つである。452年にフン人の王アッティラが北イタリアに侵入し、また455年には (5) (6) 人の軍勢がローマ市に侵攻するなど、ローマ帝国は他民族の脅威にさらされ続けた。ついに476年には、皇帝 (7) (8) がゲルマン人の傭兵隊長オドアケルによって廃位され、西ローマ帝国は滅亡した。もっとも、ゲルマン人は、いたずらにローマ的なものを排斥したわけではなく、ローマ法を範としてゲルマン人の法慣習から法典を作りあげていった。

ゲルマン諸国家の部族法典が次々に現れた一方、東ローマ帝国では、皇帝ユスティニアヌスが (9) (10) をはじめとする法学者を集めて『ローマ法大全』を編纂した。このことは、両者の間で政治・文化面でも激しい覇権争いがあったことを物語っている。ユスティニアヌスの死から3年後に (11) (12) 人の支配下におかれた北イタリアで適用されなくなるなど、『ローマ法大全』は、東ローマ帝国の支配圏の縮小により実効性をもつ地域が限定されていたが、ローマ法を後世へ伝えるという重要な役割を果たした。

ゲルマン諸国家と東ローマ帝国の覇権争いに、ローマ教会も関与していた。ローマ教会は、フランク王国を建国したクローヴィスと接触をはかり、カトリックへの改宗を促した。最も重要なゲルマン部族法典とも位置づけられるサリカ法典には、ゲルマン慣習法とともに、平和を志向するカトリック的色彩をみてとることができる。このサリカ法典は、フランク王国が消滅した後も、^(イ)女性および女系の王位継承権を否定する論拠として用いられるなど、後世に長く影響を残した。ローマ教皇の支持を得て国王となったピピン3世に始まるカロリング朝は、カトリックとの絆をさらに決定的にした。ローマ教皇によって皇帝として戴冠され、聖俗両方の権威を同時に備えたカール大帝は、異教徒を征服し、キリスト教世界の拡大に貢献した。

その後のフランク王国の弱体化等を経て生まれた^(ウ)封建社会では、法や裁判も最高権力者の直接的支配の下に置かれることはなかった。帝国法や王国法、都市法や村法などがそれぞれ独自の空間で機能すると同時に、教会法、レーエン法、荘園法、商人法などが各身分について適用されるなど、さまざまな法圏が複雑に絡み合う状況となった。

こうした混沌とした封建社会のなかに異質の秩序を生み出したのが、聖職叙任権闘争であった。教皇 (13) (14) からオットー1世への戴冠により神聖ローマ帝国が成立するなど、それまで提携関係にあった教皇と皇帝は、やがて激しく対立するようになり、教皇は、自身を頂点とする位階性（ヒエラルヒー）を明示した。他方、聖性を失った皇帝は、ローマ皇帝の権力の至上性を伝えるローマ法を用いて、自身の世俗的権力を正当化した。こうして、11世紀以降、その重要性が再認識されるようになったローマ法は、カノン法（教会法）の誕生にも寄与した。教皇 (15) (16) のアヴィニョン居住にはじまる「教皇のバビロン捕囚」にみられるように、教会の権威に揺らぎもみられたが、各教皇の下でカノン法の集成や法体制の整備は順次すすめていった。ボローニャで大きく発展を遂げたローマ、カノン両法は、ヨーロッパ各地に浸透し、後のヨーロッパ各国の法典へと受け継がれた。

〔語群〕

01. アウグスティヌス	02. アウグストゥルス	03. アウレリアヌス	04. アブリットゥス
05. インノケンティウス 6 世	06. ウァレンティニアヌス	07. ヴァンダル	08. ウルバヌス 6 世
09. ウルピヤヌス	10. エデッサ	11. ガイウス	12. クテシフォン
13. グレゴリウス 1 世	14. クレメンヌ 5 世	15. ジュート	16. スエヴィ
17. セプティミウス＝セウェルス	18. テオドシウス	19. トリボニアヌス	20. 西ゴート
21. ノルマン	22. パウルス	23. ハドリアノポリス	24. バルバリッソス
25. パルミラ	26. 東ゴート	27. ブルグンド	28. ベネディクトゥス 11 世
29. ヘラクレイオス 1 世	30. ボニファティウス 8 世	31. マクシミヌス	32. マクリヌス
33. マジャーラ	34. マルキアヌス	35. ユリアヌス	36. ヨハネス 12 世
37. ランゴバルド	38. レオ 1 世	39. レオン 3 世	40. レヒフェルト

設問 1

下線部 (ア) に関する以下の (a) から (f) の文章のうち、内容が適切なものの組み合わせを [01] から [15]の中から選び、その番号を

(17)	(18)
------	------

 にマークしなさい。

- (a) 王が追放されてしばらくの間、パトリキは神官や元老院議員のほか、王に代わって最高行政官・軍司令官となったディクタトルの職も独占した。武器をとって国防にあたり、民会に参加して国政に参与するのも、パトリキに限られていた。
- (b) パトリキとプレブスの間での激しい身分闘争の結果、平民会の開催と、そこでの護民官の選出がプレブスに認められるようになった。護民官は、プレブスの保護を主たる任務とし、元老院やコンスルの決定に対する拒否権を有した。
- (c) 外国人には市民法である十二表法ではなく衡平法が適用され、これが万民法となった。後に皇帝アントニヌス＝ピウスが発した勅令により全自由民にローマ市民権が付与されると、万民法を取り込んだ新しい市民法が一元的に適用されることとなった。
- (d) リキニウス・セクスティウス法によって、それまで平民のみを拘束していた平民会決議は、元老院の承認を得なくとも国法として全ローマ市民を拘束することになった。やがて、平民会は、パトリキも参加するようになり、正式な民会に昇格した。
- (e) 共和政下の軍隊はローマ市民によって担われていたが、ローマの版図が拡大し戦争が長期化すると、市民軍の編成は困難となった。そこで、グラックス兄弟は、軍制改革により無産者に対して志願兵としての入隊を許可した。
- (f) ローマの侵略戦争に協力させられていたイタリアの同盟市の市民は、ローマ市民権をもたなかったために、戦利品や土地の分配の利益を与えられず、次第に不満を募らせ、ついにはいっせいに反乱を起こした。これに対し、ローマはイタリアの全自由民に市民権を与えて譲歩した。

組み合わせ

[01] (a) (b)	[02] (a) (c)	[03] (a) (d)	[04] (a) (e)
[05] (a) (f)	[06] (b) (c)	[07] (b) (d)	[08] (b) (e)
[09] (b) (f)	[10] (c) (d)	[11] (c) (e)	[12] (c) (f)
[13] (d) (e)	[14] (d) (f)	[15] (e) (f)	

設問 2

下線部(イ)に関して、以下の文章の空欄 ① から ⑧ に入る人名をそれぞれ次のリストから選んだとき、最も適切な組み合わせを [01] から [12] の中から選び、その番号を (19) (20) にマークしなさい。

フランス王国では、サリカ法典を根拠として、女性および女系の王位継承権を廃止していたが、1328年、①の子であるシャルル4世が跡継ぎのないまま死去してカペー朝が断絶すると、シャルル4世のいここにあたるヴァロア家の②が王位を継いだ。これに対し、シャルル4世の甥でイングランド王の③が、女系でありながら王位継承権を主張したために、1339年、百年戦争が勃発した。イングランドが戦争で優位に立った時期には、ランカスター朝の④がイングランドとフランスの王を兼ねたこともあったが、結局フランスが勝利したため、ヴァロア朝、そして次の⑤にはじまるブルボン朝と、サリカ法典に基づく王位継承は続いた。

サリカ法典は、ドイツでも採用されていた。1714年、イギリスで⑥の死去によりステュアート朝が絶えると、ドイツのハノーヴァー選帝侯が⑦として国王に迎えられハノーヴァー朝が興された。しかし、1837年、ヴィルヘルム（ウィリアム4世）の没後、その姪がイギリス王位を継承し⑧として即位すると、ハノーヴァーではヴィルヘルムの弟が国王となり、同君連合が解消された。

人名リスト

- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|------------|
| (A) フィリップ2世 | (B) フィリップ4世 | (C) フィリップ6世 | (D) シャルル5世 |
| (E) エドワード2世 | (F) エドワード3世 | (G) ヘンリ6世 | (H) ヘンリ7世 |
| (I) アンリ4世 | (J) シャルル9世 | (K) ジェームズ2世 | (L) アン女王 |
| (M) チャールズ2世 | (N) ジョージ1世 | (O) ヴィクトリア女王 | (P) メアリ2世 |

組み合わせ

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
[01]	A	B	E	G	J	L	M	O
[02]	A	B	F	H	I	K	M	P
[03]	A	B	F	H	J	L	N	P
[04]	A	C	E	H	I	K	N	O
[05]	A	C	E	H	J	L	M	O
[06]	A	C	F	G	J	L	N	P
[07]	B	C	E	G	I	K	N	P
[08]	B	C	E	H	I	K	M	O
[09]	B	C	F	G	I	L	N	O
[10]	B	D	E	H	J	L	M	O
[11]	B	D	F	G	J	K	N	P
[12]	B	D	F	G	I	K	M	P

設問 3

下線部(ウ)に関して、中世封建社会について記した以下の [01] から [05] の文章のうち、最も適切なものを選び、その番号を

(21)	(22)
------	------

 にマークしなさい。

- [01] カール大帝が設けた地方長官の伯は、世襲制であったため、やがて独占的な支配権力を持つ大諸侯となった。国王は、大諸侯はじめ各地の有力者を王国に組み込むため、領地の保護を与える代わりに忠誠を誓わせる形で人的結合を図った。
- [02] カール＝マルテルがアヴァール人の侵入に対抗するために採用した重騎兵は、装備や従者のための莫大な費用支出を騎士に強いた。それを賄えるようにするために、カール＝マルテルが教会領の土地を取り上げて騎士に与えたことは、封建関係を促進する契機となった。
- [03] 主君と家臣との双務契約的關係からなる封建制の下では、主君は家臣を保護し扶養する責務を負っていた。そのため、主君であっても、家臣に絶対的な服従を強いることはできなかった。なかには、より多くの封土を獲得するべく、複数の主君に仕える者もいた。
- [04] 諸侯や騎士は、主君から与えられた封土を所領する領主となり、荘園内に国王の官吏が立ち入って徴税をすることを拒む不輸不入権や、荘園内の農民を裁く領主裁判権を認められた。聖職者も荘園を支配する領主となったが、独自の裁判権までは有していなかった。
- [05] 荘園内の農民の大多数を占めた農奴は、移転の自由や居住家屋の所有が認められないなど身分的束縛を受けた。また、領主の直営地で無償労働をする賦役や、領主から支給された保有地から得られた収穫物の十分の一を税として領主に収める貢納などの経済的義務も負った。

問題Ⅱ－1

以下の問題文の空欄 (23) (24) と (25) (26) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (27) (28) から(カ) (37) (38) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

春秋・戦国時代から宋代に至るまでの中国社会の変化と文化の関係について概観してみよう。

春秋・戦国時代、各地の諸侯らは、戦乱を勝ち抜くために、血縁関係に代わる新たな政治理念と、王の手足となって働く官僚集団を必要としていた。これに応えようとしたのが、^(ア)諸子百家と呼ばれる思想家たちである。

漢代には、春秋・戦国時代以来の文化が引き継がれ、これを発展させて中国文化の基礎が築かれた。文字については、現在の漢字とほぼ同じ隸書体のほか、楷書体や草書体も用いられるようになり、許慎によって中国最古といわれる辞書『 (23) (24) 』も編まれた。

秦から前漢初期までは、法家思想が国家の統治思想として有力であった。しかし、武帝に信任された董仲舒の提言で五経博士が置かれると、儒家思想を基本理念に持つ官僚層が次第に勢力を拡大し、法家思想に代わって儒学が人民統治に用いられはじめ、やがて儒教が成立した。一方、^(イ)前漢末には、神秘的な予言を行う (25) (26) 思想が盛んとなり、王莽はこれを利用して新を打ち建てた。

魏晉南北朝時代には、^(ウ)文化の面で新しい息吹が見られ、独特の貴族文化も花開いた。^(エ)仏教については、4世紀の後半、仏図澄や鳩摩羅什ら西域の仏僧が、絹の道を経て中国に大乘仏教を伝え、布教や仏典の漢語訳を始めてから、本格的に広まった。

^(オ)唐代の法や制度・機構は、中央集権体制の確立を示しているが、実権を握っていたのは北朝系の門閥貴族であった。最盛期の唐の都・長安は、人口100万を超え、東アジア各地から集まった商人、僧、留学生などでにぎわい、絹の道、海の道を経て西アジアやヨーロッパからの文物、宗教がもたらされた。

唐宋・五代十国期を経て、社会は大きく変動し、官僚制国家の宋が成立した。宋代の文化は、内面性、実用性、独創性、庶民性をその特色とした。美術、工芸の水準は高度なものとなり、格調の高い宋磁が作られた。^(カ)宋画では写実と自然観察が深められ、宮廷の院体画と並んで、文人・僧侶の文人画が開花した。

設問

(ア) 法家の商鞅を用いて富国強兵策を推し進めた秦王は誰か。 (27) (28)

(イ) 前漢末に、豪族の大土地所有の抑制と小農民の保護を目的として、哀帝が発布した法令は何か。 (29) (30)

法

(ウ) 華北の農法を体系的に著した農業書『齊民要術』を叙述・編纂したのは誰か。 (31) (32)

(エ) 白蓮社を結成し、浄土宗の始祖といわれる東晋の僧は誰か。 (33) (34)

(オ) 西魏以来の府兵制のもとで、各地の成人男子を徴集、訓練、動員するために設けられた軍営は、何と呼ばれていたか。 (35) (36)

(カ) 宋代の繁栄を象徴する『清明上河図』を描いたのは誰か。 (37) (38)

〔語群〕

- | | | | | |
|-----------|----------|---------|----------|----------|
| 01. 陰陽五行 | 02. 慧遠 | 03. 応天府 | 04. 賈思勰 | 05. 科田 |
| 06. 嵇康 | 07. 経国大典 | 08. 阮籍 | 09. 限田 | 10. 孝公 |
| 11. 黄老 | 12. 謝靈運 | 13. 周敦頤 | 14. 襄公 | 15. 尚書 |
| 16. 書經 | 17. 識緯 | 18. 神仙 | 19. 折衝府 | 20. 説文解字 |
| 21. 占田・課田 | 22. 莊王 | 23. 楚辞 | 24. 達磨 | 25. 張昞端 |
| 26. 程頤 | 27. 程顥 | 28. 道安 | 29. 董其昌 | 30. 都察院 |
| 31. 土断 | 32. 都督府 | 33. 文公 | 34. 方田均税 | 35. 穆公 |
| 36. 李公麟 | 37. 李思訓 | 38. 緑营 | 39. 酈道元 | 40. 老莊 |

問 題 II－2

以下の〔01〕から〔05〕の文は、唐代から宋代にかけての政治と文化について述べたものである。それらの中から、最も適切なものを選び、その番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 唐・宋代の代表的な文章家である韓愈、柳宗元、欧陽脩、蘇軾、蘇轍、曾鞏、司馬光、王安石は、唐宋八大家と呼ばれている。
- 〔02〕 唐は、全土に20あまりの路という行政区域を設け、軍事、民政財政、司法、備蓄それぞれの監督官を置き、地方に対する統制を強めた。
- 〔03〕 宋は、蔭位の制により、新興の地主層から有能な人材を官僚に登用した。
- 〔04〕 1019年に女真族が対馬、壱岐、北九州などを襲った事件は、「刀伊の入寇」と呼ばれている。
- 〔05〕 1044年に結ばれた慶暦の和約により、宋は金に対し歳賜として、銀、絹、茶などを贈ることになった。

問 題 II－3

以下の〔01〕から〔05〕の文は、明末から清代にかけての政治と文化について述べたものである。それらの中から、最も適切なものを選び、その番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 明朝最後の皇帝・崇禎帝は、清の攻勢に苦しみ、1644年、李自成に北京を攻略され自殺した。
- 〔02〕 ポルトガル人によって台湾西南部に築かれたゼーランディア城は、1661年に鄭成功により攻略された。
- 〔03〕 清の中国王朝としての正統性を示すために、康熙帝の命により、『大義覺迷録』が著された。
- 〔04〕 『皇輿全覽図』は、雍正帝の命により、レジスやブーヴェらによって完成された。
- 〔05〕 康有為は、『中庸』公羊伝を正統とする公羊学派の思想に基づき、変法自強を提唱した。

問 題 II－4

以下の〔01〕から〔05〕の文は、清朝の西洋諸国とのかかわりについて述べたものである。それらの中から、最も適切なものを選び、その番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 貿易交渉のためにイギリスから清に派遣されたマカートニーは、1793年、三跪九叩頭の礼を拒否したため、乾隆帝に謁見できず帰国した。
- 〔02〕 魏源は、光緒帝の命により、当時の最新の知識を盛り込んだ世界地理書である『海国図志』を著した。
- 〔03〕 1856年にアロー戦争が起こったが、アメリカ合衆国の調停で講和が成立し、天津条約が批准されるとともに、北京条約も締結された。
- 〔04〕 同治帝の生母である西太后は、総理各国事務衙門の初代首席に就任した恭親王とともに、清朝の実権を掌握した。
- 〔05〕 ゴードンによって設立された洋式武装の常勝軍は、李鴻章らの郷勇と協力して、太平天国軍鎮圧に活躍した。

問題 III

以下の文章は、第一次世界大戦中にアメリカ合衆国の大統領が議会で行った演説の一部を訳したものである。これを読んで設問1から設問11に答えなさい。

われわれがこの戦争に参加したのは、(ア)われわれの権利が侵害されて甚大な影響を被り、かかる侵害状態が正され二度と同じことが繰り返されない世界を確実なものとしなければ、われわれ国民の生活が不可能になったからである。よってわれわれがこの戦争において求めているのは、われわれだけにあてはまるものではない。(中略)したがって世界平和の計画はわれわれの計画でもあり、その計画、われわれの見るところ唯一可能な計画は、以下のようなものである。

- 一 公開された平和のための規約。それは公開の場で合意され、以降はいかなる秘密の国家間の了解もあつてはならず、(イ)外交はすべて常に率直に公衆の目の届くところで行われなければならない。
- 二 (略)
- 三 平和に合意し平和維持のために協同するすべての(ウ)諸国間の経済障壁を可能な限り取り除くとともに、それらの諸国間の貿易条件を平等にすること。
- 四 (エ)諸国の軍備を国内治安の維持と両立する最低の水準に引き下げることを、十分に保証しあうこと。
- 五 (略)
- 六 ロシアからの撤兵、およびロシアに影響しているすべての問題を解決すること。そうすることによって、世界の他国の最善にして自由な協力を確保して(オ)ロシアが妨害や侮辱を受けることなく自国の政治的發展と政策を独自に決定する機会を得るとともに、自らが選んだ制度の下で自由な諸国からなる国際社会への参入を心から歓迎され、しかもロシアが必要とし望むかもしれないあらゆる種類の支援も確保できる。(以下略)
- 七 他のすべての自由な国家と同様に(カ)ベルギーが享受してきた主権にいかなる制限も加えることなく、ベルギーからの撤兵とその主権回復を実現することに世界中が同意するであろう。(以下略)
- 八 (略)
- 九 (キ)イタリア国境の調整は民族間のはっきりした境界線に基づいて実施されるべきである。
- 十 (略)
- 十一 (略)
- 十二 現在のオスマン帝国におけるトルコ人居住部分の主権は保証されるべきだが、現在のトルコ人統治下にある他の諸民族には生存が保証され、全く妨害されることのない自律的な発展への機会が与えられるべきである。また(ク)ダーダネルス海峡は国際的保証の下、すべての国の船舶および通商に恒久的に開放されるべきである。
- 十三 (ケ)独立ポーランド国家が樹立され、それにはポーランド人であることが明白な人々の居住する領土が含まれ、海洋への自由で安全な出口が確保されるべきである。また、ポーランドの政治的・経済的独立と領土保全は国際取り決めによって保証されるべきである。
- 十四 国の大小を問わず、政治的独立と領土保全を相互に保証しあうことを目的とする、諸国家一般の結束を、具体的な規約に基づいて形成しなければならない。

不正を改め正義を実現しようとするかかる重要な営みにおいて、われわれは、帝国主義的諸勢力に対抗すべく団結した諸政府および諸人民の親しい仲間にはかならない。われわれは利益においても目的においても、決して分断されることはあり得ず、最後まで連帯を維持する。

設問 1

この演説をした大統領と関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (45) (46) にマークしなさい。

- [01] この大統領の在任中に、アメリカ合衆国で性別による選挙権の差別が撤廃された。
- [02] この大統領は民主党の大統領で、この後三人共和党の大統領が続き、さらにそれに続く二人は民主党の大統領だった。
- [03] この大統領は、「新しい自由」を掲げ反トラスト法を廃止した。
- [04] この大統領の在任中にパナマ運河が開通し、太平洋と大西洋の往来が容易になった。

設問 2

下線部 (ア) に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (47) (48) にマークしなさい。

- [01] フランス革命やナポレオン戦争に際して、アメリカ合衆国は中立の立場をとり貿易で大きな利益をあげていた。
- [02] アメリカ合衆国は、自国の客船ルシタニア号がドイツの潜水艦に撃沈されたのをきっかけに、第一次世界大戦への参戦を決めた。
- [03] 第二次世界大戦においても、アメリカ合衆国はヨーロッパで戦争が始まってから2年あまり後に参戦したが、参戦前から連合国を支持する姿勢をとっていた。
- [04] アメリカ合衆国は、1949年に北大西洋条約機構の発足に参画し、集団的防衛体制を築いた。

設問 3

下線部 (イ) に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (49) (50) にマークしなさい。

- [01] イタリアはドイツおよびオーストリアと1882年から三国同盟を形成していたが、イタリアに南チロルなどの領土譲渡を約した秘密条約に基づき、連合国側について参戦した。
- [02] 第一次世界大戦後、ソ連は秘密外交の廃止を宣言して、帝政ロシアが結んだ秘密条約を暴露した。
- [03] 1939年に結ばれた独ソ不可侵条約には、ポーランドなどにおけるドイツとソ連の勢力圏を決めた秘密議定書がついていた。
- [04] 第二次世界大戦中、アメリカ合衆国、ソ連、イギリスが合意したヤルタ協定には、ソ連の対日参戦を約した秘密条項があった。

設問 4

下線部 (ウ) に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (51) (52) にマークしなさい。

- [01] イギリスは19世紀半ば以降自由貿易政策を採用していたが、1932年のオタワ連邦会議でスターリング＝ブロックを形成することによって、自由貿易主義を放棄した。
- [02] アメリカ合衆国は、第一次世界大戦によって債務国から債権国に転じ国際金融の中心になったが、貿易面では高関税政策を採用した。
- [03] アメリカ合衆国は、1924年のドーズ案に基づき、ドイツに公的借款を供与したのに加えて、第一次世界大戦に起因する賠償の総額も減額し、ドイツ経済の復興に寄与した。
- [04] 資本主義世界との経済的交流が限られていたソ連は、世界恐慌下の1930年代にも工業化が急速に進んだ。

設問 5

下線部(エ)に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (53) (54) にマークしなさい。

- [01] アメリカ合衆国が1921年からワシントンで主催した会議で、主要国海軍の主力艦の保有トン数が定められるとともに、日英同盟の解消が合意された。
- [02] アメリカ合衆国のフーヴァー大統領在任中のロンドン軍縮会議で、米英日の補助艦の保有トン数が合意されたが、日本国内ではその内容を不満とする勢力が強く反発した。
- [03] アメリカ合衆国のケネディ大統領の在任中に、核拡散防止条約が締結され、米ソ英仏中以外の国による核兵器保有は禁止されたが、その後もインド、パキスタンなどが保有するようになった。
- [04] アメリカ合衆国のニクソン大統領は、ソ連のブレジネフと第一次戦略兵器制限交渉(SALT I)で合意し、両国間の緊張緩和を推進した。

設問 6

下線部(オ)に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (55) (56) にマークしなさい。

- [01] 十一月革命によって1917年に実権を握ったボリシェヴィキは、翌年にはブレスト＝リトフスク条約を結び、ソヴィエト側に不利な条件でドイツと講和した。
- [02] 第一次世界大戦後、ソヴィエトは国際的に孤立したが、1922年にはドイツとラパロ条約を結び、その後ヨーロッパ主要国はソ連を承認していった。
- [03] レーニンが1924年に死去すると、トロツキーとスターリンの間に路線対立が起こったが、コミンテルンを活用するなどして世界革命を推進すべきだとしたスターリンが勝利した。
- [04] アメリカ合衆国はフランクリン＝ローズヴェルト政権の下でソ連を承認し、それにつづいてソ連は国際連盟への加盟も認められた。

設問 7

下線部(カ)に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (57) (58) にマークしなさい。

- [01] ネーデルラントのうち現在のベルギーを構成する地域では、カトリックの勢力が強く、16世紀にオランダが独立してからもスペインによる支配が続いた。
- [02] ベルギーは1814年からのウィーン会議で、オランダの領土とされたが、フランス七月革命の影響を受けて独立を果たした。
- [03] 1914年、ドイツはフランスを攻略するため、中立国だったベルギーに侵攻し、イギリスはそれを理由にあげてドイツに宣戦した。
- [04] 第二次世界大戦後、ソ連への警戒を強めていったイギリス、フランス、西ドイツなどの西欧諸国は、1948年ベルギーの首都で西ヨーロッパ連合条約を結んだ。

設問 8

下線部(キ)に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (59) (60) にマークしなさい。

- [01] 早くから産業革命が進行したピエモンテを領土に含むサルディニア王国が、近代イタリアの統一を推進した。
- [02] イタリア王国は、プロイセン＝オーストリア戦争に際してプロイセンを支持し、オーストリアからヴェネツィアを奪い併合した。
- [03] イタリアは1870年にローマ教皇領を占領したが、その後半世紀以上にわたりヴァチカン为本拠とする教皇との対立が続いた。
- [04] 第一次世界大戦後、イタリアはユーゴスラヴィアとの間でトリエステの領有をめぐる国境紛争を引き起こし、その後ムッソリーニ政権下のイタリアがこれを奪取した。

設問 9

下線部(ク)に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (61) (62) にマークしなさい。

- [01] クリミア戦争の結果結ばれたパリ条約で、オスマン帝国軍以外の軍艦によるこの海峡の通行が原則的に禁じられた。
- [02] イギリスは1878年のベルリン会議でキプロス島をオスマン帝国から、ジブラルタルをスペインから獲得した。
- [03] イギリスは、1875年ディズレーリ政権の下でスエズ運河会社の株をエジプトから買い取った。
- [04] 1956年、エジプトによるスエズ運河国有化宣言に反発したイギリスは、フランス、イスラエルとともにエジプトに侵攻したが、アメリカ合衆国等から非難され撤退した。

設問10

下線部(ケ)に関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (63) (64) にマークしなさい。

- [01] 18世紀後半に、プロイセン、オーストリア、ロシアに領土を分割されて独立を失ったポーランドは、第一次世界大戦後、チェコスロヴァキア、ラトヴィア、ギリシアなどとともに独立を果たした。
- [02] 第一次世界大戦後、ポーランドは自国の歴史的領土の回復を目的に、ソヴィエトとの間で戦争を開始し、ベラルーシやウクライナの一部に侵攻し占領した。
- [03] 第二次世界大戦は、1939年9月、ドイツがポーランドに侵攻し、これに対してイギリスとフランスがドイツに宣戦布告したことで始まった。
- [04] 第二次世界大戦後東側陣営に組み込まれたポーランドでは、1980年ワレサを指導者とする自主管理労働組合「連帯」が、政府に改革を求める運動を始めた。

設問11

本文中省略した、二、五、八、十、十一の5つの条項に含まれる内容(ただし、その順番は問わない)を(a)～(n)から選び、正しい組み合わせの番号を解答用紙の (63) (64) にマークしなさい。

省略された条項の内容

- (a) 25年以内にフィリピン独立を実現
- (b) アフリカにおける植民地のイギリスおよびフランスによる再分割
- (c) アルザス＝ロレーヌのフランスへの返還
- (d) オーストリア＝ハンガリー帝国内における諸民族の自決
- (e) 海洋の自由航行の原則
- (f) 国際仲裁裁判所の創設
- (g) 植民地問題の公正な調整
- (h) 人種平等の原則
- (i) 中国における門戸開放の原則
- (j) ドイツとオーストリアの合併禁止
- (k) ドイツによるフランスの戦争被害に対する賠償
- (l) バルカン半島からの撤退と同地における民族の自決
- (m) パレスチナにおけるユダヤ人国家の樹立
- (n) 領海12海里的原則

組み合わせ

- [01] (a) (b) (e) (h) (m)
- [02] (a) (d) (f) (l) (n)
- [03] (a) (g) (h) (j) (m)
- [04] (b) (c) (d) (j) (k)
- [05] (b) (f) (i) (l) (n)
- [06] (c) (d) (e) (g) (l)
- [07] (c) (e) (f) (m) (n)
- [08] (c) (h) (j) (k) (l)
- [09] (d) (f) (g) (i) (m)
- [10] (e) (g) (h) (i) (k)

問題Ⅳ

以下の問題文の空欄 (67) (68) から (79) (80) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (81) (82) から(オ) (89) (90) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

2010年の統計によると、世界人口のうち約16億人がイスラーム教を信仰している。これは、約4人に1人がムスリムであることを意味する。7世紀に創始されたこの宗教は、どのような経緯でこれほどまでに広まったのだろうか。

預言者ムハンマドが630年頃に^(ア)アラビア半島の大半を征服した後、イスラーム教は8世紀頃までに中央アジアから北アフリカ、さらにはイベリア半島にまで広まった。それは、アラブ人が他民族を支配するウマイヤ朝による「アラブ帝国」から、民族を問わずムスリムの平等を実現しようとするアッバース朝による「イスラーム帝国」への変容の過程でもあった。アッバース朝ではウマイヤ朝とは異なり、アラブ人ムスリム、非アラブ人でイスラーム教に改宗した人々である (67) (68) ,そして征服後も改宗しなかったジンミーに対して平等に土地税(ハラージュ)が課され、また行政機構においても非アラブ人が重用された。

11世紀頃からはトルコ系のイスラーム国家が台頭しはじめ、イスラーム教の第2の拡張期を迎えた。セルジューク朝、カラ＝ハン朝、ガズナ朝などトルコ系指導者による国家が台頭したのは、トルコ人が多かったマムルークと呼ばれる軍事奴隷が次第に勢力を増し、アラブ系指導者にとって代わるようになったからである。なかでも中央アジアから地中海に至る広大な領土を獲得したセルジューク朝では、第3代スルタンである (69) (70) を補佐した宰相ニザーム＝アルムルクが^(イ)イクター制をはじめとする徴税、行政、軍の制度を整備した。

アフリカでは、11世紀末頃よりチャド盆地のカネム＝ボルヌー王国が、また13世紀末頃よりニジェール、 (71) (72) 両河川流域のマリ王国とそれに続くソンガイ王国が、イスラーム教を受け入れた。さらに、大陸東岸ではムスリムのアラブ商人が往来したことにより、アラビア語が土着の (73) (74) 語とまじりあってスワヒリ語が生まれた。

インド及び東南アジアにおいては、ムスリム商人による貿易活動に影響を受けてイスラーム教が広まった。13世紀にはデリーを都とするインド初のイスラーム王朝が建てられ、約300年にわたってデリー＝スルタン朝が続いた。16世紀初頭にはデリー＝スルタン朝に代わってムガル帝国が興り、その最盛期である17世紀にはインド亜大陸のほとんどを支配した。しかし、18世紀になると帝国内小王国の離反や、 (75) (76) と呼ばれる徴税を請け負う地方豪族の台頭などから衰退しはじめ、19世紀中頃にはイギリス領となった。東南アジアでは、15世紀の初めに海上交易の要衝であるマレー半島の^(ウ)マラッカにイスラーム王国が興った。その後スマトラ島、ジャワ島、ボルネオ島にもイスラーム教が伝わった。

イスラーム教の主要な宗派としてはスンナ派とシーア派があり、スンナ派の信者が大多数を占める。スンナ派はムハンマドの言行録である (77) (78) を通じて慣行(スンナ)を解釈し、預言者の意思を体現しようとする。スンナ派の拡大にあたっては、^(エ)スーフィズムと呼ばれる、形式主義を避け内面的な救済を重視する思想をもった教団の役割が大きかったといわれている。一方のシーア派は、ムハンマドの娘である (79) (80) と結婚し第4代カリフとなったアリーとその子孫のみをイスラーム共同体(ウンマ)の指導者であるイマームと考える。今日シーア派が多数を占める国にはイラン、イラク、アゼルバイジャンなどがある。

現在、世界で最も多くムスリムが住む国は^(オ)インドネシアであり、これにパキスタン、インドなどのアジア諸国が続く。今後は移民の増大などから南北アメリカやヨーロッパにおいても増加が見込まれ、2030年にはムスリムが約22億人になると予測されている。

設問

- (ア) アラビア半島に興って17世紀以降東アフリカ沿岸に進出し、19世紀にはザンジバル島で王宮を建設してこの地域の貿易を支配した国はどこか。 (81) (82)
- (イ) イクター制と同様、帝国への軍事的な協力の見返りに土地を配分し、そこでの徴税を認める制度で、11世紀にビザンツ帝国において貴族を対象に導入された制度は何か。 (83) (84) 制
- (ウ) 16世紀のポルトガル侵攻によりマラッカを追われたスルタンとその一族が、別の地に逃れて建てた王国は何か。 (85) (86) 王国
- (エ) 『ビージャク』は、15世紀から16世紀頃のインドにおいてスーフィズムとヒンドゥー教を融合した信仰を掲げた宗教改革者の言説をまとめたものである。シク教の成立にも影響を与えた、この宗教改革者は誰か。 (87) (88)
- (オ) インドネシアの初代大統領であるスカルノが指導した、オランダからの独立運動は何か。 (89) (90) 運動

[語群]

- | | | | |
|------------------|-----------------|------------|-------------|
| 01. アーイシャ | 02. アチェ | 03. アデン | 04. アーヤーン |
| 05. アラム | 06. アルプ＝アルスラーン | 07. イエメン | 08. ウルグ＝ベク |
| 09. オマーン | 10. カタール | 11. カーディー | 12. カティプーナン |
| 13. カビール | 14. カーリミー | 15. コイサン | 16. コーラン |
| 17. コンゴ | 18. サミン | 19. ザミンダール | 20. ザンベジ |
| 21. シャーギール | 22. シャー＝ワリーウッラー | 23. ジョホール | 24. ジンミー |
| 25. セネガル | 26. ティマール | 27. テマ | 28. 屯田兵 |
| 29. ナイル | 30. ハウサ | 31. ハディージャ | 32. ハディース |
| 33. パレンバン | 34. ハワーリジュ | 35. バントウ | 36. ファーティマ |
| 37. フクバラハップ | 38. ブティ＝ウトモ | 39. プロノイア | 40. ベドウィン |
| 41. マタラム | 42. マリク＝シャー | 43. マワーリー | 44. ムルデカ |
| 45. モハーチ | 46. ヤークブ＝ブン＝ライス | 47. ライヤット | 48. ラーマーヌジャ |
| 49. ラーム＝モーハン＝ローイ | 50. リンボボ | 51. ルカイヤ | 52. ワクフ |

2014(平成26)年度 法学部 一般入学試験問題 訂正

教科・科目	ページ	設問	誤	→	正
世界史	12	問題 Ⅲ 設問 11	<u>(63)(64)</u> にマークしなさい。	→	<u>(65)(66)</u> にマークしなさい。